

私のおすすめ

Movie VIII

高橋泰英

高橋皮膚科クリニック（横浜市中区）

昨年は皆様にお勧めしたい映画が少なかったのですが、最近DVDで見た過去の作品と今年になってから映画館で見た映画も含めました。これまでの、「前年に見た映画から選ぶ」という自分のルールを破り、いわば「前借」です。来年がちょっと心配ですが、何とかなるでしょう（来年も書く気満々）。

『トップガン マーヴェリック』

あの『トップガン』から36年、これはあえてここでお勧めするまでもないとは思いますが、期待以上の出来でした。ただ残念ながら、劇場の大画面と素晴らしい音響でないと面白さは半減でしょうね。それでも見る価値はあると思います。これを見てから『トップガン』も見直しましたが、若きトム・クルーズの「ニカッ」とした笑顔は眩しすぎて恥ずかしい。今もスタント無しのアクションをこなすという若さを保ちつつ、円熟したいい顔になったなあと感心しきり。この映画を知らない人は映画に関心がないとみなし、内容はあえて書きません。

『アバター：ウェイ・オブ・ウォーター』

『アバター』の続編でこれまた映画館向きの映画ですが、3Dである必要はないので自宅でもなんとか楽しめるのではないのでしょうか。早い話が異星人と地球人とが戦うSFです。普通と違うのは主人公が異星人の方ということです。異星人の造形は嫌いな人も多いようですが、その他の生物の造形は相変わらず素晴らしい。1作目は奥行きのある画面が印象的で、これから3D映画が流行るかなと思いました。しかしその後の3Dは手前に飛び出す効果を狙ったものが多く、煩わしいだけで最近はかなり少なくなりました。3Dでなくても立体映像を想像することはできるわけで、人間の脳を馬鹿にははいけないということですね。

『エルヴィス』

最近ポピュラーミュージックアーティストの伝記映画が矢継ぎ早に上映されていますが、これぞ真打というべきエルヴィス・プレスリーの登場です。主演のオースティン・バトラーは惚れ惚れするパフォーマンス。そしてもう一人の主演というべきアコギなマネージャーを、あのトム・ハンクスが怪演。惜しむらくは、それぞれの曲を全部しっかり聞いたかった。それにしてもトップスターの周辺にはろくでもない人ばかり。歌で聴衆を幸せにしても、本人は幸せを手でできなかった人がほとんどなのではないでしょうか。

『非常宣言』

飛行機内のウイルステロを描いたサスペンスです。韓国映画界の2大スター、ソン・ガンホとイ・ビョンホンが共演。脚本も撮影も文句なし、140分間画面に釘付けです。ああ、またしても邦画との比較をして、大いに嘆くことになりました。

『RRR』

久しぶりの「ザ・インド映画」。英国統治時代のインドを舞台にした大冒険活劇ですが、もちろん音楽や踊りもふんだんでこれも素晴らしい。ほぼ3時間の長尺ですが、色彩と音楽とアクションの洪水に飲み込まれてあっという間でした。

『モガディシュ 脱出までの14日間』

ソマリア内戦に巻き込まれた韓国と北朝鮮の大使館員たちの脱出劇。両国の大使館員たちが騙し合ったり協力し合ったりの行ったり来たりも面白いですが、終盤のカーアクションシーンが圧巻。本当の戦闘を撮影したかのように、完全にハリウッド越えです。

『Coda コーダ あいのうた』

2014年制作のフランス映画『エール!』の、アメリカ版リメイクです。何度も言っていることですが、アメリカ版リメイク作品はオリジナルよりかなり劣ると思っています。しかしこれは例外でした。ちょっとした味わいが違うだけです。ろう者の両親・兄と暮らす一人だけ健常者の少女（Coda: Children of Deaf Adult）が、合唱クラブの顧問に歌の才能を見出され音楽学校への進学を勧められる。しかし家業の漁業を続けるには、健常者の彼女が必要。それにろう者の家族には彼女の歌の上手さが分からない。進学か家業どちらを選択？

オーディションで歌うのがジョニ・ミッチェルの名曲『Both Sides, Now』。これを使うのは「涙腺刺激法違反」です。1969年日本公開の『青春の光と影』にジュディ・コリンズの歌で使われ、『ラブ・アクチュアリー』でも印象的な使われ方をしていました。ちなみに家族を演じた俳優3人は、ろう者だそうです。なお最近「ろうあ者」という言葉は使われなくなってきました。聴覚障害のために副次的に話すことができないのであって、トレーニングによって話せるようになる人もいるため、「ろう者」=「ろうあ者」ではないということだそうです。私はこの文章を書くまで、そのことを知りませんでした。

『男はつらいよ50 お帰り 寅さん』

過去49作の場面を振り返りつつ「くるまや」なじみの人たちの現在を描く、50周年記念作品。『男はつらいよ』を見たことがない人は、これだけを見る意味はないと思います。2作以上見た方は懐かしく見られるでしょう。蛇足ですが、寅さんの甥の満男はずっと吉岡秀隆が演じていたと思っていたのですが、彼は3代目で第27作以降だそうです。渥美清も途中で誰かに「寅さん」を譲っていたら、もっといろいろな役で素晴らしい演技を見せてくれていたかもしれないと思うとちょっと残念です。本人はかなり「つらかった」かもしれませんね。

『ボーリング・ポイント／沸騰』

ロンドン的高级フレンチレストランの舞台裏を、90分ワンショットで見せる。料理の手順、従業員の人間関係、客とのやり取り、どれもスリリングでリアル。ドキュメンタリーとしか思えません。時間に追われ、突発的な事態に追われ、見ている間中、息が詰まります。マズの私が苦しいのだから間違いなし。現在切羽詰まった生活をしている人は見ない方がよろしいです。しかし見終わってしばらくすると、すごい傑作を見たんだという何とも言えない充実感が満ちてきました。

『search／サーチ』

女子高生の失踪事件を、SNS・検索サイト・テレビ映像・監視カメラなどの画像だけで見せます。初めはかなり違和感があり、「生の映像はいつ出てくるんだ？ これがずっと続いたら嫌だな」と思っていました。しかし事件が明らかになり捜査が始まるに従い、これが実に緊迫したリズムを生み出すのです。サスペンスとしてもとても良く出来ていますが、この新感覚はなにより貴重な体験になるはずです。

『新しき世界』

韓国の裏社会に潜入した警官の苦悩を描くサスペンス・アクション。この手の題材は香港の『インファナル・アフェア』をはじめ、終始ヒリヒリした不安感が漂います。暴力描写がかなりどぎついで、誰にでもお勧めできるわけではありません。ただ韓国映画は、緊張感溢れる場面とユーモラスな場面とのバランスが良いのが救いです。今回はファン・ジョンミンがその役割を担っています。この人は誠実な人物にも、胡散臭い人物にも成りきるいわゆるカメレオン俳優です。今回は一人の人間のおちゃらけた面と恐ろしい面、そして人情味のある面を見事に矛盾なく見せてくれました。

